

焼岳南峰（2455m）春山合宿別動隊（新人雪上訓練）

佐藤 京子・福澤 卓三 記



焼岳南峰（左）と 焼岳北峰（右奥）



焼岳北峰（中央）（2444m）

期 間 : 2019年4月28日から29日

山 域 : 焼岳南峰(2455m)

メンバー : 福澤卓三 佐藤京子

コースタイム

4月28日（晴れ）

新宿バスタ（9:00）－松本（14:45-15:00）－中の湯温泉（16:30）－偵察（17:15-18:00）

4月29日（快晴）

中の湯温泉（3:45）－新中の湯ルート登山口（4:00）－1972m（6:20-6:30）－
焼岳南峰（8:30-9:00）－1972m（10:25）－中の湯登山口（11:15）－中の湯温泉
（11:30-12:00）－松本（13:30-16:20）－新宿バスタ（22:30）

4月28日

新宿バスタは大型連休の為、売店・トイレは大変混んでいる。9時出発の為、深夜と違いバスの中で眠る必要はないので、自然と睡魔に任せていけば眠くなり気分的に楽である。中央高速がゴールデンウィークで混んでいて、中の湯温泉の送迎バスが松本まで迎えに来てくれる時間までに間に合うか心配したがなんとかまにあった。

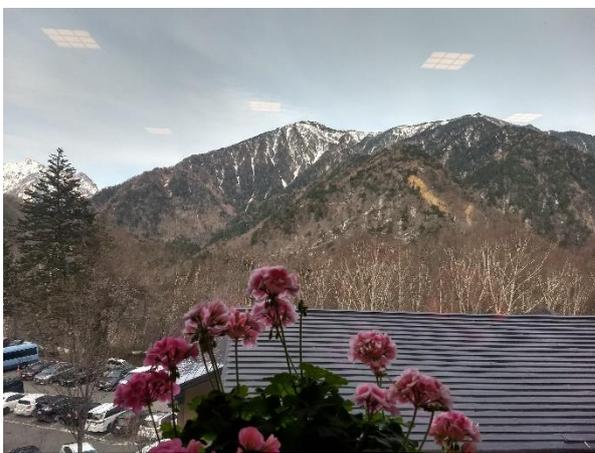
中の湯に到着後すぐに、明日の早朝キャップライトを付けて行動するので、旧道からの登山口の確認をするために偵察をした。中の湯温泉の横手から裏手に回り斜面を15分ほど登ると20台くらい止められる駐車場があり、旧道の右前方に登山口があった。ここから大きく右にトラバス気味に右上していくのである。早朝暗いときには、探すのに時間がかかりそうで、偵察してよかった。



中の湯温泉の裏手から登る



中の湯温泉、下の別館は登山客用



春と冬に登った霞沢岳（2646m）中の湯から

（中の湯温泉のロケーションは最高である。行くたびに徳本峠からアプローチが長く、ぼてた霞沢岳がきれいにみえた。山行でホテルなど宿泊したことがない山男には、なんとも贅沢な気持ちにしてくれる。温泉は上部の焼岳方面からは鉄分が多く、下のほうから、くみ上げている。沸かし湯でないことは当然である。食事もうまかった。）

中の湯温泉のバスが松本まで送迎してくれるので、交通費は新宿バスタから松本まで、行きは2475円、帰りは3800円。合計6275円で済んでしまった。

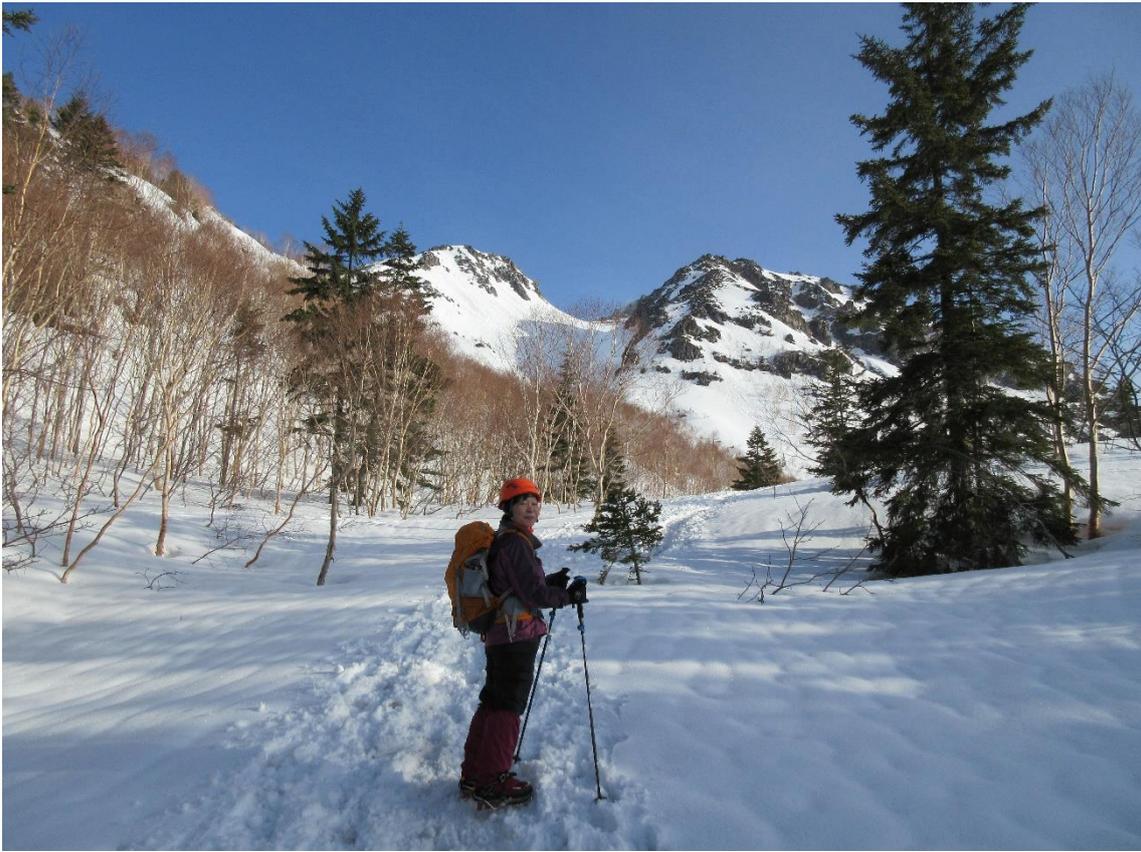
4月29日 新人感想文（佐藤 京子）

3時45分、アベックが星空を見に玄関へ。私たちは、満天の星空の元、ザックに昨夜、宿で用意して頂いたおむすびを詰め、ヘルメットにキャップライトをつけて、宿の玄関の脇で、家で繰り返し練習したアイゼンを装着する。ヨシ！上手くいった!!覚えてしまえば、誰よりも早く装着できる、ブラックダイヤモンドのアイゼンである。

さあ、出発だ！リーダーのあとを遅れないように付いて行く。

早朝なので、雪面がクラストしていて、新品のアイゼンの歯がしっかりと食い込み、歩きやすい。急な斜面である樹林帯を抜けると目の前にこれから登る焼岳が姿を表した。

天気は上々、もう汗びっしょり、ウインドウブレーカーを脱ぎ、ここからはストックをピッケルに変える。山頂上部を仰ぐ広場から急登の斜面や稜がピークまで伸びている。



森林限界を過ぎると頂上を仰ぐ広場にでる

左に南峰。右手の奥には見えないが北峰。噴煙が見え、硫黄の匂いがしてきた。
ここから急斜面や、稜線らしきルートを登っていくと、そこで、偶然にも夏毛が生えかかった雷鳥に遭遇、ラッキー!! スキーヤーが南峰と北峰のコルからカール状に広がったところをすべっていた。夏道の上あたりにトレースもあった。



頂上直下の岩の間を登りきると、 やった～！山頂到着
頬にあたる風はひんやりと気持ちいい！目の前には憧れの北アルプス。
感動して暫く動く事が出来ない。



笠ヶ岳・槍ヶ岳・奥穂高岳・西穂高



焼岳南峰の頂上から、槍ヶ岳・穂高連峰バックに。よく頑張った。佐藤京子

中の湯温泉の松本行きの送迎バスの時間が12時なので、ゆっくりできず、記念写真を撮って下山した。下りは上りに比べ緊張した。急斜面の悪いところは、横向きや、後ろ向きの下りの降り方を教えてもらいながら実践して降りた。

登山を初めて半年、本当に雪山に登れるの?と家族からの心配の声もあり、自分でも不安で一杯でしたが、同じく春合宿に向かっている金井代表からの「やっちょ!」の応援メールに背中を押して頂き、また福澤先輩のご指導のお陰で、無事に雪山デビューする事ができました。全くの初心者を雪山に引率できる横須賀山岳会の底力に改めて敬意を示すと共に、入会して本当によかったと思いました。これからもワクワクドキドキしながら、主体性をもって、積極的に、いろいろな事に挑戦し、登山技術を学び、経験を積んで、体力、精神力もつけて、横須賀山岳会の会員として。恥ずかしくないアルピニストになりたい。 新人 佐藤京子



安全なところでシリセード。楽しかった。



奥穂高岳をバックに福澤先輩と

(追記) 福澤 卓三

当初、北峰を目指したが、森林限界を抜けて山頂上部を仰ぐ広場の上部の夏道のルートと思われる、カール状のところをトラバスしなければならず、南峰のほうが、積雪期には一気に頂上に伸びた雪面や稜を詰めていけば登りやすそうであり、北峰よりも標高が高く、積雪期しか登れないのも魅力的であるので南峰を登った。元気な若者たちのパーティーは南峰を登り、夏道のトラバス地点まで下ってから北峰を登っていた。一番早く取りついて、森林限界を超えるまでは一番先を歩いていたが、元気な若者に抜かれ、彼らは南峰を登り、北峰を登った後に、もう一度追い越しますよと私たちが下っているときに、また追い越していった。会員募集のため若者をスカウトしようとしたが、横須賀には遠い若者ばかりであった。



北峰に行くルートの特レースが見える。噴煙が見える。



槍ヶ岳・奥穂高岳・前穂高・西穂高岳をバックにご機嫌な福澤会員